

「喜びの里鷺宮」の由来・意味

平成 24 年 10 月 5 日

今回、新規創設施設として計画申請を行った、「喜びの里鷺宮」について、名前の意味やゆかりなどを紹介させていただきます。まず、「喜びの里」は新潟県の小千谷地区内に現存しています。牛や馬との共存生活は昔の日本の良さを十分に発揮、満喫出来ている山間の田園地域であります。雄大な大自然や家畜にふれあいながら同居生活を行い、すべての自然と生き物に深い感謝の念を抱き、送る日常生活は、笑顔にあふれている山村地区であります。また、そのような名称を選んだ理由は、別にもう 1 つあります。今日において、施設入所は家族様と別れ別れになり老後の生活を余儀なくされるご利用者様ですが、お一人、お一人の心の中のお気持ちを察することができる職員であり、入所事業所でなくてはなりません。まず、「人生の最大の喜びは・・・、人を喜ばせることである」との考えで、職員は努力を致します。また「よき思い出づくり」にも力を発揮させます。人生は喜ばせごっこだと思っています。人を喜ばせることは大切な職員力で必須なことであり、それぞれが置かれた立場や状況で「喜び」は、どのようにして与えることができるのか、日頃、研究していくことと、喜びがあると人生は楽しくなる。また笑顔も喜びの表現の 1 つと思い、大切なことと理解をして実行させます。あふれる喜びがあつて愛と勇気を胸に職員及びご利用者様が毎日、熱い心で今を生きて行く、良き思い出づくりの場所（施設）に「なるように願って命名し、すべての「人を喜ばせること」を目標・目的とする考え方でノーマライゼーションな日々の生活で施設運営を行いたいと考えています。そしてそれらを表現できる名前「喜びの里鷺宮」としました。

また、候補地の近くを流れる「葛西用水」に生える四季折々の花々（ポピーやコスモス）で心を癒して歴史と伝統と文化の町、その地域「鷺宮」に住んで、長生きして良かった得（徳）をしたよと思われるような、心のこもった温かいケアの実践・実現を目指します。

ご利用者様に喜びを与えること、喜びあふれる中で職員が一丸となって施設運営を目指していきます。そんな大きな目的のある名称であると思います。

また、看取り介護において、終末期の方々にも喜びを分かち合い楽しんで暮らせる施設づくりを行うこと。最後に、すべてにおいて「喜びのある毎日の楽しい生活を求める」そんな施設になるように最善の努力を致します。

特別養護老人ホーム久喜の里
施設長 小林 明

〒346-0022 埼玉県久喜市下早見 1728-1
TEL:0480-25-2100 FAX:0480-25-2102